

## 令和6年度第1回 愛西市子ども子育て会議 会議録（概要）

会 議 名	令和6年度第1回 愛西市子ども子育て会議
開 催 日 時	令和6年8月30日（金）午前10時から午前11時20分まで
開 催 場 所	愛西市役所 南館 会議室1-3、1-4
出 席 者	別紙のとおり
欠 席 者	佐藤言葉委員、難波知里委員、青木夕紀子委員、寺本英予委員
議 事 等	<p>●議事</p> <p>(1) 愛西市子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>(2) その他について</p>
公開/非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
会 議 資 料	<p>資料1-1 愛西市の子ども・子育てを取り巻く現状</p> <p>資料1-2 愛西市子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査結果からわかる課題</p> <p>資料2 愛西市こども計画【骨子案】</p> <p>資料3 保育園等の状況について</p>
審 議 経 過	別紙のとおり

## 愛西市子ども子育て会議委員

役 職	氏 名	備 考
委員	吉村 譲	
〃	佐藤 言葉	欠席
〃	難波 知里	欠席
〃	堀田 真吾	
〃	日比野 久美子	
〃	吉川 哲也	
〃	青木 夕紀子	欠席
〃	安達 和枝	
〃	神田 倫代	
〃	鈴木 幸子	
〃	小塚 陽子	
〃	山内 清乃	
〃	寺本 英予	欠席

## 事務局

役 職	氏 名	備 考
健康子ども部長	人見 英樹	
保険福祉部参事	高松 潤也	
子育て支援課長	前野 輝次	
子育て支援課 指導保育士	横江 一実	
子育て支援課 課長補佐	横井 暁子	
子育て支援課 課長補佐	渡邊 竜樹	
子育て支援課 主任	青木 一郎	
株式会社エディケーション	大野 敏秋	
株式会社エディケーション	川口 祐希	

## 審議経過

発言者	内容（概要）
事務局	<p><b>1 あいさつ</b> （開会） 愛西市審議会等の会議公開に関する要綱に基づき、本日の会議は公開としている。本日、傍聴希望者は0名。</p>
会長	（会長あいさつ）
事務局	<p><b>2 協議事項</b> <b>(1) 愛西市子ども・子育て支援事業計画について</b> （資料1-1、1-2、資料2に基づき説明）</p>
会長	委員の皆様から意見、質問はありますか。
会長	子ども、若者からの意見を計画に反映していきたいという話があったが、パブリックコメントでは、子ども、若者にも意見を求めるのか。
事務局	若者や子どもたちの意見の聴取について、子どもたちの意見を集約できる場を設けていきたい。
会長	<p>計画については、子どもたちにわかりやすいようにし、その計画に対しての意見を聞くなどの機会を設けてほしい。 素案の作成にあたり、第2期の計画の実績を踏まえて今後の達成目標を数値として計画の中に盛り込むのか。</p>
事務局	<p>第3期の計画においては、国が必要とする計画値を定めたいと考えている。どの部分を目標とするのかはこれから考えていく。前回会議時に、子育て応援プランの評価をしっかりとされた方がよいのではないかと、ということがあった。今年度末に、5年度の実績を評価する機会があるため、工夫していきたい。</p>
委員	<p>資料2の基本目標3の人材の確保について、愛西市は保育園、幼稚園、児童クラブの利用者に対して、他の市よりも利用料が低いことや、いろいろな補助があるなど、保護者に対しては優しいが、反対に事業者側は補助金が削られるなど、どんどん狭められている。それについて、今後どのような計画を出されるかが重要かと思う。人材確保については、園だけではなく、他の業態もどんどん厳しくなっている。人口が減っているということは、保育士になる人も減っている。名古屋市内から愛西市に働きに来る人は、割合でいえば10%くらいしかいないと考えると、どのように人材確保に対して計画をたてられるのか。 また基本目標2では、保育ニーズが高まっていると言っていたが、需要が</p>

	<p>足りていることから今後公立園（1園）が閉園することへの矛盾を感じる。中高生の調査での中学生に関しては、愛西市の9割くらいが公立に通っていることを考えると、中学生は全員に調査をしてもよかったのではないかと。また、ヤングケアラーの問いでは、自分は困っていないと答えている子が、「困っている」と答えて問題が起きるのが嫌だから本音を言わない子たちが多いかもしれないし、その逆の背景をいうと、それだけやりたいことが見つかっていない子たちがいることも考えられる。また、中高生のなりたい職業がどんどん変化してきており、一所懸命働かなくてもお金をもらえる楽な方についている傾向もある。そのあたりも考えると、やりたいものを見つけるとか、希望が持てる何かが中高生らにできるとよいと思う。そういったところもアンケート結果から考え、幼保小中で連動していくとよいと思う。市が国や他市が行っていること以上のことを、どこまでするのかだと思ふ。</p>
委員	アンケートの結果を一般の市民の方はどこかで見ることはできるのか。
事務局	アンケートの結果については、計画策定する際に、アンケート結果をあわせて盛り込む予定である。
委員	中学生などは、本心で語るのがすごく難しい。小学校の交通指導員として高学年の男の子と話していても、やはり本音で語らない。ヤングケアラーについても、実はすごく気になる子がいるが、その子のところにアンケートが届いても、おそらくその子は回答しない。困っていることがないか、という問についても「特にない」が多いからよかった、ということではなく、ないからこそ、何かがあるのではないかなど、身近な方々が様子を見ながら見守っていただく環境が必要なのではないかと。アンケートをすることはとても有意義なことであると思ふ。
会長	子どもたちの意見、子どもたちの思いを匿名で相談できるシステムのようなものは子どもたちに十分に伝わっているのか。愛西市にはそういったものがあるのか。
事務局	学校関係の方にそういったシステムがあるのかもしれないが、詳細の返答ができない。子どもの意見を多く聞き入れ、その意見を愛西市全体にきわたらせるような施策は考えていきたい。
会長	ネットで相談する学生がたくさんいるのは現実。例えばヤングケアラーの子たちが困ったときに匿名で相談できる、あるいは学校で嫌なことがあったときに相談できる、子どもがタブレットで相談できるとか、そういうシステムを考えるなど、計画の中に盛り込んでもらえたらよい。骨子案の基本目標7で「外国人の子どもや家族への支援」と書かれているが、この調査の中で、外国にルーツがある子どもたちに関する調査結果はあったのか。

事務局	調査票に関しては、外国人に関する調査はしていない。
会長	そうはいつでも、計画の骨子案の中に載せたということは、何らかの支援が愛西市でも必要だと考えているということでしょうか。
事務局	保育園、小学校、中学校では外国籍のお子様が多くなっていると聞いている。その子たちも生きづらさを感じず、皆が平等に生活できるような環境を整えていくことは必要だと考える。
会長	学校だと外国の子に対する通訳や支援はあるかもしれないが、私が知っている保育園や幼稚園はそういった支援が少ない。保育の場面で外国にルーツを持つ子への対応では、先生たちも困っている場面もあると思う。そういったことを考えて計画をつくっていただけるとありがたい。
委員	外国にルーツを持つ子どもは増えてきている。保護者は案外大丈夫だが、子どもが一番難しい。外国語を話すことができる保育士はほとんどいない。多国籍化しているということもある。鈴鹿市は、外国籍の人が多いため、週に2回くらい通訳が来てくれるところもあるが、通訳を雇うより、人件費の何倍も安いポケトークを配布した方が早いと思う。ただ、保育の中でそれを使うのはなかなか難しいところもある。
委員	うちの保育園でも3か国、4か国程の外国籍のお子さんがある。担任も簡単な英語を使い、保護者にお知らせを伝えるが、大事なところがどこまで伝わっているかどうかは不明である。園の手紙を通訳できるような翻訳機があると嬉しい。
委員	うちの場合は、アプリの連絡帳なので自動翻訳。ただ、PDFであげたものは翻訳できない。グーグルの翻訳に入れればかなり翻訳ができる。それをやってくれる部署が市にあれば非常に助かる。
事務局	計画の中での人材の確保・育成の観点から、保育園への支援について意見があったが、この目標の中の人材の確保は、社会全体の中で子育てに携わる人を増やしていくということ。また、保育士不足について、市全体として取り組むべきことがあるのかどうかという観点であるため、具体的に事業者への補助金を増やすという目標ではない。もちろん、事業者側のお立場からのご意見をいただくのはありがたい。具体的な園への補助は、市全体の事業の中のひとつになるため、計画の中で定めるということはない。また、保育ニーズについて、実際ここ数年、0～2歳児のニーズが増えている傾向はある。ただ、長期的な視点で見ると、少子化もあり、少なくなっていくという認識。
委員	もちろん、この計画で補助金を求めるものではないが、そういうことを考えることは、人材確保をすることに最終的にリンクする。

委員	<p>子ども子育てのことを考えるのであれば、まちをどうしていくか、そこが実際は大事だと思う。人口が減少しているということは、税収が減るなど、いろいろな問題もあると思う。</p> <p>資料1-2の16、17頁と資料2の基本目標8の部分について、私が住んでいる八開地区は少子高齢化がすごく進んでいると実感する。公共交通機関はなく、駅もないため、若者が離れていく。実際に、私の子どもたちの同級生は何人残るのかとすごく不安になる。</p> <p>基本目標8「子ども・若者が活躍できるまちづくり」とあるが、人口が減る中、地域ボランティアで行っている、PTA役員、子ども会、老人会、婦人会では、縮小、解散の方向に向かっており、親を見て育てている子どもたちが、地域の人に世話をしてもらえない中で育て、本当に活躍できるのか。</p> <p>また、地域ごとに協働体をおこし、地域が中心となり見守ってもらう会をつくっていると、他の会議に出た時に聞いた。地域で頑張ってください、というのは確かだが、地域の方だけでは難しい世の中になってきている。愛西市は物件として安くなっているものの、人口の減少、交通の便が悪い、仕事が名古屋に集中している、などのことから若者が地域を離れていると考えられる。地域への参加もすごく減ってきている中、地域づくりが大事だと思っている人もいることを受け止めもらい、市が地域の人と協力して声かけや支援をしてもらえたらと思う。</p>
会長	<p>子どもや若者が、大人の背中を見ながら活躍できるような計画を考えていただきたい。</p>
委員	<p>小中学校にタブレットが配られていると思うが、活用はできそうなのか。愛西市のICT学習面では、他の地域よりも活用が遅れていると聞いている。インターネットを利用して、匿名で相談できるとよいと思う。</p> <p>あいさいっ子相談室の案内も学生の方に配られていると思うが、おそらく案内を知るだけで終わっていると思う。ボタンをひとつ押せばちょっと愚痴が言えるくらいのものであれば、簡単に相談しやすいのではないかと。ICTの部署はあるのか、そういったところと連携しているのか。</p>
事務局	<p>現在、学校の方でICTをどのように運用しているのかは、今お答えできないが、相談しやすい道具があるとよいことは我々も認識としては同じ。</p> <p>あいさいっ子相談室のPRも行ってはいるが、一番相談しやすいのは何かということは我々も考えていかなければいけないと思っている。</p> <p>システムとの連携については、個別に子育てに関するものではないが、全庁的にICT化を進める部署はあるため、相談しながらやっていく体制。</p>
会長	<p>今年度から、こども家庭センターが発足している。愛西市のホームページから子育てのところを押すと「こども家庭センターが開設されました」という記事はあったが、「こども家庭センター」をクリックする場所がなかつ</p>

事務局	<p>た。愛西市のホームページで「こども家庭センター」をクリックしたら、そこに子ども子育てに関するいろいろな情報がつながっているというホームページの作成はどうか。考えていただければ思う。それも含めて、計画の中に入れるとよい。</p> <p>(2) その他(資料3に基づき説明)</p>
委員	<p>私の娘が愛西市の高校で保育士を目指して勉強をしており、実習先を選ぶにあたり、愛西市の保育園を利用できず、他市の実習となった。愛西市に住んでいて、愛西市の高校に行っているにもかかわらず、その地域の保育園が利用できないのかという疑問がある。保育士になろうという人材がいるので、手を差し伸べてもらえたら。</p>
委員	<p>幼稚園に関しては、愛知県全体で幼稚園の連盟がそういった活動をしている。高校生向けの職場体験を幼稚園連盟が受けて分配するが、保育園の団体はない。幼稚園団体はそれに対して、県から補助があるが、保育園団体は補助が全くないため、できていないという現状があるのかと思う。あと、基本的には直接連絡があった場合、受けてくれるところがほとんどだと思う。幼稚園連盟の中には認定こども園もたくさんあり、保育園体験もそっちでできてしまう。どうしても分配するための人件費がかかる。幼稚園連盟は補助があるが、保育園連盟は残念ながらない。それをやるべきだとはなっているが、誰がどうやって始めるのか。自分の園も経営しながら、じゃあ誰がやるの、となる。</p>
委員	<p>愛西市から実習先を探すのが、行きやすい場所があまりない。自分が将来、就職するときに、稲沢市にしようとなるのがすごくもったいないと思う。</p>
委員	<p>市がつくってくれたマップ自体と高校生の実習先のリンクができていない。市からも働きかけてくれるとありがたい。</p>
会長	<p>それぞれの保育園が引き受けるということを市のこども家庭センターから確認できたらわかりやすいかと思う。リンクがうまくできたらよい。</p>
事務局	<p>次回の第2回の愛西市子ども子育て会議は10月か11月の午後の予定。</p> <p>以上で第1回愛西市子ども子育て会議を以上で終了する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>